

土木学会誌第三十八巻総目次

土
38

1973.28

会 長 講 演	号	頁
最近における河川行政の推移について……………会長	稲 浦 鹿 蔵………… 6	1
講 演		
国際橋梁会議及び米国工学百年祭出席報告……………副会長 工博	福 田 武 雄………… 1	1
報 文		
各種形状踏面車輪が轍叉通過の際にもたらす衝撃の大きさ……………正員	沼 田 政 矩………… 1	5
	八十島 義之助	
土の ATTERBERG 限界測定に対する時間の影響……………正員	内 田 一 郎………… 1	9
	松 本 鍊 三	
トンネルのコンクリート覆工から切取つたコアの 圧縮強度試験……………正員	坂 本 貞 雄………… 1	14
合成桁の断面決定法について……………正員 工博	安 宅 勝………… 1	21
打込まれたコンクリートの強度を測る一方法について……………正員 工博	丸 安 隆 和………… 1	26
	水 野 俊 一	
総合開発について……………正員	山 本 三 郎………… 2	1
真砂土の最適含水比附近の透水性について……………正員	竹 下 春 見………… 2	6
	網 干 春 寿	
トラクタの履帯に関する研究……………正員 工博	村 山 朔 郎………… 2	12
	昌 昭 治 郎	
ゲルバー梁の振動性状について……………正員 工博	小 西 一 郎………… 2	16
	小 松 定 夫	
アメリカのトンネル工事を視て……………正員	加 納 俊 二………… 3	1
アルミニウム電極による土の電気化学的固結法について……………正員 工博	村 山 朔 郎………… 3	6
	越 三 賀 正 隆 貞	
ぜい性材料の切削について……………准員	畠 昭 治 郎………… 3	11
重力操車場の設計について……………正員 工博	江 藤 智………… 3	14
コンクリートの癒着について……………准員	村 田 二 郎………… 3	19
臨海工業用地及び埠頭施設に対する投資限度について……………正員	落 合 林 吉………… 3	24
固定砂利層上の水流の平均流速について……………正員	久 宝 保………… 3	28
静水中の砂利の転動あるいは沈降速度について……………正員	久 宝 保………… 4	1
2インチ管による砂輸送の抵抗に関する実験……………正員	小 川 元………… 4	5
固有値問題の数値解法……………正員 工博	村 山 朔 郎………… 4	10
	谷 本 喜 一	
橋梁下部構造の振動性状について……………准員	後 藤 尚 男………… 4	14
降雨時擁壁の附加圧力算定について……………准員	赤 井 浩 一………… 4	19
帯板のピンジョイントにおける応力集中……………准員	山 本 稔………… 5	1
土の突固めに対する特性及び乾燥密度曲線の実験式……………正員	渡 辺 隆………… 5	5
	久 野 悟 郎	
粘弾性体の圧密……………正員	篠 田 仁 吉………… 5	10
島根県江川橋梁架設工事について……………正員	陶 山 襄………… 5	13
活荷重による敷設軌条のねじれの実測報告……………正員	八十島 義之助………… 5	18
鋼プレートガーダー道路橋の実測応力について……………准員	大 村 裕………… 6	8

モーメント分配法に関する一私案	正員	塚本正文	6	13
橋梁上下部構造の固有周期に関する一近似計算法	准員	後藤尙男	6	15
セメント及び薬液注入を利用したダムの 仮締切および既設ダムの漏水どめの施工例について	正員 准員	工博 丸安隆和 黒崎 達二	6	21
砂利層の振動性状について	正員 正員	工博 村山朔郎 最上幸夫	6	27
段落水流の水理現象に関する実験的考察	正員	岩崎敏夫	6	31
遷移点を越えた非線型滲透流	正員	工博 内田茂男	6	36
アイ・バーの計算公式について	正員	大野諫	6	41
円筒殻に関する2つの研究	正員	工博 岡本舜三	7	1
開水路不等流の相似理論的考察とその応用	正員	栗津清蔵	7	8
洪水時用流速計の作製	正員	工博 永井荘七郎	7	12
平均値法による流量算定式について	正員	春日屋伸昌	7	17
脚部固定の鉄筋コンクリート門型ラーメンの経済的設計	正員	工博 後藤幸正	7	23
鋼上路道路橋の縦桁の曲げモーメントの計算について	正員	成岡昌夫	7	27
静水中に落下する水流の実験	正員 准員	岩崎敏夫 干秋 信一	8	1
トランシットの外焦式望遠鏡における水平又線 (十字横線)の種々の調整法に対する理論的研究	正員	森吉満助	8	6
鋼鉄道橋の実測応力について	准員	大村裕	8	10
管内の砂水流れにおける各種限界流速について	正員	小川元	8	15
コンクリートアーチ橋の横荷重応力について	正員 准員	工博 水野高良 彦坂 明次	8	19
曲梁の歪エネルギーに対する新公式	正員	大野諫	9	1
工学材料の模型解析	正員	樋口芳朗	9	6
盛土の施工制御に対する考察	准員	赤井浩一	9	10
開水路における垂直流速曲線について	正員	春日屋伸昌	9	15
ハリ断面の様な3径間連続橋における径間比について	正員	深谷俊明	9	21
ゲルバー梁の振動性状について(補遺)	正員 准員	工博 小小西一定 小松 郎夫	9	27
立体ラーメンにおける振りモーメントについて	正員 准員	工博 結吉城朝 吉 恭 本 彌	10	1
コンクリート舗装の目地間隔	正員	吉本彰	10	6
測角の視準誤差及び測角値の重みについて	正員	岡積満	10	11
フロートによる沿岸流測定法について	正員	真嶋恭雄	10	13
既設鋼道路橋の振動減衰について	正員 准員	工博 小山西一 山田 善一	10	19
浮枕木による軌道応力の一般解法	正員	若林正	10	23
電氣的逆性土の添加による土の性質の変化について	准員	森麟	10	26
勾配及び摩擦抵抗を考慮した超波速流の研究	正員	嶋祐之	11	1
浮砂濃度と流速分布の関連について	准員	室田明	11	8
地震時の STABILITY NUMBER について	正員	工博 倉田宗章	11	11
余水路における衝撃波の実験的研究	准員	石原安雄	11	15
いわゆるヘドロのチキソトロピーについて	正員 准員	工博 松山春豊 尾内 雄 豊 聰	11	20

堰上流の堆砂現象に関する実験	正員	杉尾捨三郎	11	26
鋼上路道路橋の縦桁によつて支持される床版の曲げモーメントについて	正員	成岡昌夫	12	1
河川改修に関連する堤内地の排水について	正員	渡辺隆二	12	4
軌条の腹部応力について	正員	八十島義之助	12	9
巾の拡がる水路における衝撃波について	正員 准員	嶋堀川祐清 之司	12	14
水平力をうけた井筒の安定計算について	正員 准員	池原武一郎 横山章	12	19
寄 書				
アメリカ河情視察記	正員	伊藤剛	4	23
プレストレストコンクリートについて	正員	猪股俊司	8	24
台北市双溪水源建設計画検討報告	正員	工博 岩井重久	12	26
資 料				
安価なる水路の漏水防止ライニング	正員	近藤利八	2	30
修正変垂曲線アーチの軸線および換算荷重線の数値表	正員	武田英吉	3	37
硫酸による土の含水量測定	准員	山内豊聰	4	30
国際橋梁会議、米国工学百年祭その他の文献について	正員	工博 福田武雄	4	31
ステアリン単分子膜による細骨材の表面積の測定について	正員	太田誠一郎 荒川正文	8	25
抄 録				
つり橋の空気力学的安定			1	30
濁水浄化の場合のプロキユレーション			1	31
アムステルダムーライン運河			2	32
メーソンリイ ダムの揚圧力			2	33
弾性的に支持された円環の半径方向の衝撃			3	39
ダムに対する氷圧一温度変化の影響に関する研究			5	28
普通のコンクリートの早期凍結			5	30
ダムに対する氷圧			6	45
破壊的な振動作用を抑制するためにつくられた鍛造ハンマーの基礎			6	47
長径間コンクリート橋の設計			6	48
ロックフィルダムの復興			6	49
沈殿池の設計に関する研究			7	33
調圧水槽のサージング高及び振動の安定性			7	34
波浪の屈折及び回折について			8	26
電気滲透法による湿潤土壌の安定工法			8	27
米国防軍技術部コンクリート工事示方書の改正について			8	29
Preloading による基礎沈下の調整			8	30
空気混入水流の流速測定			9	33
洪水追跡に対する電氣的類推算装置の適応性			9	34
鉄管の好気性及び嫌気性腐蝕			9	35

プレストレスト コンクリートにおける連続性の理論的解法	9	36
水中噴流混合領域内のキャピテーション	10	31
静的並びに動的な土の締め固め	10	32
新しい装薬法	10	34
橋梁に作用する衝撃的荷重の非弾性的影響について	11	31
濠洲の飛行場における土の含水量と密度	11	33
ロックフィルダム粘土コアの冬季施工に塩を使用した例	11	34
長径間道路橋の活荷重負載について	11	35
新型のピヤー式発電所について	11	36
大腸菌群試験結果の平均値算定について	12	28
軟弱地盤上の軽構造溢流ダム	12	29
コンクリートと岩の支圧強度	12	30

講 座

土木推計学Ⅴ—土木現象を対象とした時系列の問題	正員 工博 石 原 藤次郎	1	32
土木推計学Ⅵ—品質管理の方法	正員 工博 丸 安 隆 和 正員 水 野 俊 一	2	35
鉄道建設技術講座Ⅰ	正員 桑 原 彌寿雄	4	35
” Ⅱ	” ” ” ”	5	32
” Ⅲ	” ” ” ”	6	51
” Ⅳ	” ” ” ”	7	35
” Ⅴ	” ” ” ”	8	32
” Ⅵ	” ” ” ”	9	38
” Ⅶ	” ” ” ”	10	35
” Ⅷ	” ” ” ”	11	37
” Ⅸ	” ” ” ”	12	33